

川崎市建築物環境配慮制度受付番号 23014

建築物名称	(仮称)川崎市宮前区宮崎3丁目PJ新築工事
建築主	大和ハウス工業株式会社 南関東支社 執行役員支社長 齋藤 栄司
建築物の所在地	川崎市宮前区宮崎3丁目10-5
設計者氏名、建築士事務所名	花岡 和司 株式会社花岡都市建築設計 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	4,086.40㎡
用途	共同住宅
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上5階
工事完了予定年月	令和7年3月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	太陽光発電

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)川崎市宮前区宮崎3丁目PJ 新築工事	階数	地上5F
建設地	川崎市宮前区宮崎3丁目10-5	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域、準防火地域	平均居住人員	132人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年3月 予定	評価の実施日	2023年7月12日
敷地面積	1,559 m ²	作成者	株式会社花岡都市建築設計 花岡和司
建築面積	1,042 m ²	確認日	2023年7月12日
延床面積	4,086 m ²	確認者	株式会社花岡都市建築設計 花岡和司

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.2

Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.6

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境 (敷地内) Q3のスコア = 2.7

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.5

LR1 エネルギー LR1のスコア = 4.3

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 2.6

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.5

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.8
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出			
2 まちなみ・景観への配慮		2.3/4.3	2.6
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	3.3
Q-1 ■ 室内環境対策			
2 2.1 2.1.2 外皮性能	日本住宅性能表示5-1温熱等級5相当	5.5/6.1	4.5
3 3.1 3.1.3 昼光利用設備			
3.2 3.2.1 昼光制御	住:カーテンと庇の2種類を組み合わせでグレアを抑制		
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出		1.1/2.3	2.3
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	日本住宅性能表示5-1温熱等級5相当	4.3/5.0	4.3
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化	BEI=0.60		
4 効率的運用			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護		2.5/4.7	2.6
2 非再生性資源の使用量削減			
3 3.2 フロン・ハロンの回避			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	3.1
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 部品・部材の耐用年数		0.3/0.5	3.5
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護		2.0/4.0	2.6
2 非再生性資源の使用量削減			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制		0.3/0.4	3.3
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	3.2
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出		1.1/2.3	2.3
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	日本住宅性能表示5-1温熱等級5相当	4.3/5.0	4.3
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化	BEI=0.60		
4 効率的運用			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点

3.2

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.1	5.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
2 2.2 既存建築躯体等の継続利用		0.7/1.2	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	日本住宅性能表示5-1温熱等級5相当	4.3/5.0	4.3
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化	BEI=0.60		
4 効率的運用			

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階				重点項目					環境配慮設計の概要記入欄		全体		
配慮項目	G	W	R	H	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体						
									評価点	重み係数					
Q 建築物の環境品質														3.2	
Q1 室内環境											0.40	-		3.6	
1 音環境											3.0	0.15	3.0	1.00	3.0
1.1 室内騒音レベル											3.0	0.50	3.0	0.50	
1.2 遮音											3.0	0.50	3.0	0.50	
1 開口部遮音性能											3.0	1.00	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能											-	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)											-	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)											-	-	3.0	0.20	
1.3 吸音											-	-	-	-	
2 温熱環境											2.0	0.35	5.0	1.00	4.2
2.1 室温制御											2.2	0.50	5.0	1.00	
1 室温											3.0	0.63	-	-	
2 外皮性能											1.0	0.38	5.0	1.00	
3 ゾーン別制御性											-	-	-	-	
2.2 湿度制御											3.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式											1.0	0.30	-	-	
3 光・視環境											3.0	0.25	3.2	1.00	3.1
3.1 昼光利用											3.0	0.30	2.4	0.50	
1 昼光率											3.0	0.60	3.0	0.50	
2 方位別開口											-	-	1.0	0.30	
3 昼光利用設備											3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策											3.0	0.30	4.0	0.50	
1 昼光制御											3.0	1.00	4.0	1.00	
3.3 照度											3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御											3.0	0.25	-	-	
4 空気質環境											3.6	0.25	3.6	1.00	3.6
4.1 発生源対策											4.0	0.60	4.0	0.63	
1 化学汚染物質											4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気											3.0	0.40	3.0	0.38	
1 換気量											3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能											-	-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮											3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理											-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視											-	-	-	-	
2 喫煙の制御											-	-	-	-	
Q2 サービス性能											-	0.30	-	-	3.2
1 機能性											3.0	0.40	3.8	1.00	3.5
1.1 機能性・使いやすさ											3.0	0.40	5.0	0.60	
1 広さ・収納性											-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応											-	-	5.0	1.00	
3 バリアフリー計画											3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性											3.0	0.30	2.0	0.40	
1 広さ感・景観											-	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース											-	-	-	-	
3 内装計画											3.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理											3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計											3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保											3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性											3.1	0.30	-	-	3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振											3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)											3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能											3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数											3.5	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数											5.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔											2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔											4.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔											3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔											5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔											2.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性											2.8	0.20	-	-	
1 空調・換気設備											3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備											2.0	0.20	-	-	
3 電気設備											3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法											3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備											3.0	0.20	-	-	

3	対応性・更新性								3.0	0.30	3.0	1.00	3.0
	3.1 空間のゆとり								-	-	3.0	0.50	
	1 階高のゆとり								-	-	3.0	0.60	
	2 空間の形状・自由さ								-	-	3.0	0.40	
	3.2 荷重のゆとり								-	-	3.0	0.50	
	3.3 設備の更新性								3.0	1.00	-	-	
	1 空調配管の更新性								3.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性								3.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性								3.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性								3.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性								3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保								3.0	0.20	-	-	
Q3	室外環境(敷地内)								-	0.30	-	-	2.7
1	生物環境の保全と創出	G	W			H	-		2.0	0.30	-	-	2.0
2	まちなみ・景観への配慮	G					-		3.0	0.40	-	-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮						-		3.0	0.30	-	-	3.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上						-		3.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上	G	W			H	-		3.0	0.50	-	-	
LR	建築物の環境負荷低減性								-	-	-	-	3.5
LR1	エネルギー								-	0.40	-	-	4.3
1	建物外皮の熱負荷抑制		W			H	5-1断熱等級5相当		5.0	0.20	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用		W			H	-		2.0	0.10	-	-	2.0
3	設備システムの高効率化		W			H	BEI=0.60		5.0	0.50	-	-	5.0
4	効率的運用								3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価								-	-	-	-	
	4.1 モニタリング		W			H	-		-	-	-	-	
	4.2 運用管理体制		W			H	-		-	-	-	-	
	集合住宅の評価								3.0	1.00	-	-	
	4.1 モニタリング		W			H	-		3.0	0.50	-	-	
	4.2 運用管理体制		W			H	-		3.0	0.50	-	-	
LR2	資源・マテリアル								-	0.30	-	-	2.6
1	水資源保護		W			R			3.0	0.20	-	-	3.0
	1.1 節水								3.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用								3.0	0.60	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無								3.0	1.00	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無								-	-	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減								2.4	0.60	-	-	2.4
	2.1 材料使用量の削減		W			R	-		2.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用		W			R	-		3.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		W			R	-		3.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		W			R	-		1.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材		W			R	-		2.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		W			R	-		3.0	0.20	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避								3.0	0.20	-	-	3.0
	3.1 有害物質を含まない材料の使用								3.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避								3.0	0.70	-	-	
	1 消火剤		W				-		-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)		W				-		3.0	0.50	-	-	
	3 冷媒		W				-		3.0	0.50	-	-	
LR3	敷地外環境								-	0.30	-	-	3.5
1	地球温暖化への配慮		W				LCCO2排出率65%		4.4	0.33	-	-	4.4
2	地域環境への配慮								3.0	0.33	-	-	3.0
	2.1 大気汚染防止								3.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善	G	W			H	-		3.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制								3.0	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減					R	-		3.0	0.25	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制					R	-		3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制					R	-		3.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制					R	-		3.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮								3.1	0.33	-	-	3.1
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止								3.0	0.40	-	-	
	1 騒音								3.0	1.00	-	-	
	2 振動								-	-	-	-	
	3 悪臭								-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制								3.0	0.40	-	-	
	1 風害の抑制								3.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制								-	-	-	-	
	3 日照阻害の抑制								3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制								3.7	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策						広告物照明無し		4.0	0.70	-	-	
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策								3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	2.0	-		○	○	-	-	-	-						
1.3.1 維持管理に配慮した設計	3.0		-	○	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	5.0		-	○	-	-	○	-	○	-	-	○	-	○	-
2.4.1 空調・換気設備	-		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	1.0	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	2.0		○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	5.0		-	-	1.0	-	-	1.0	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	3.0		2.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0		-	-	-	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	8.0		-	-	1.0	3.0	-	-	-	2.0	2.0	-	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	10.0		1.0	-	-	-	3.0	1.0	-	2.0	3.0	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	2.0		1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	3.0		-	1.0	1.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0		1.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC - 窓の日射熱取得率(η) -
 U値(W/m2K) 窓システム - 屋根 - 外壁 - 床 -
 住戸部分システムU値 - 外皮UA値 - ηAC - ηAH -

3.1.1 昼光率

昼光率 0.0%

4.2.2 自然換気性能

自然換気有効開口率 0.0%

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

執務スペース .0㎡ /人 病床 .0㎡ /床 シングル .0㎡ ツイン .0㎡

1.1.2 高度情報通信設備対応

コンセント容量 0.0 VA/㎡

1.2.1 広さ感・景観

天井高 0 m

1.2.2 リフレッシュスペース

リフレッシュスペース 0.0% レストスペース 0.0%

2.2.1 躯体材料の耐用年数

想定耐用年数 0 年

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

想定必要間隔 0 年

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

想定必要間隔 0 年

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

想定必要間隔 0 年

3.1.1 階高のゆとり

階高 0 m

3.1.2 空間の形状・自由さ

壁長さ比率 0.0%

3.2 荷重のゆとり

床荷重 - N/m2

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

外構緑化指数 83% 建物緑化指数 4%

3.2 敷地内温熱環境の向上

空地率 33% 水平投影面積率 10% 地表面対策面積率 33% 舗装面積率 0%

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

BPI/BPI_m - 日射等性能等級 等級4を超える 相当

2 自然エネルギー利用

自然エネルギー直接利 0 MJ/年㎡ 採光を満たす教室数 0.0% 採光を満たす住戸数 0.0%
 通風を満たす教室数 0.0% 通風を満たす住戸数 0.0%

3 設備システムの高効率化

BPI/BPI_m 非住宅 - 住宅 - 太陽光 .0kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kW

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

雨水利用率 0.0%

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

特定調達品E - エコマーク商品 - 自治体指定の特定品目等 -

2.5 持続可能な森林から産出された木材

使用比率 0.0%

3.2.1 消火剤

オゾン層破壊係数(CFC) 地球温暖化係数(GWP)

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

オゾン層破壊係数(CFC) 地球温暖化係数(GWP)

3.2.3 冷媒

オゾン層破壊係数(CFC) 0 地球温暖化係数(GWP) 8

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比 135% |棟間隔指標Rw 0.14
 地表面対策面積率 49.0% 屋根面対策面積率 5.0% 外壁面対策面積率 #DIV/0!
 見付面積S_b 661㎡ |越風向と直交する最大敷地幅W_s 57.163 m 基準高さH_b 8.54 m
 緑地 314㎡ 水面 ㎡ 保水性対策面 ㎡ 高反射対策面 ㎡ 再帰性反射対策面 ㎡